

# 愛知サークル10月例会報告

2020年10月17日(土) 名東小 参加：8名

## ○ ブックレット 第1部

「授業研究会の会」がめざす子どもの姿は、「教材の質の高さを『追求』し、のびのびと自分を『表現』する美しい子ども」となっている。そして、「追求性」「表現性」「主体性」「対話性」の4つの側面をもっているとある。具体的にはどういう子を美しいとすればよいのか。

わたしたち教師が、審美眼をもち、美しい子どもを見るために、教材解釈をしなくてはならない。美しさの中身は、追求性と表現性である。常に、より質の高いものへと変革を続け、因習の中で異質を貫く勇気をもって因習をなくしていきたい。戸田実践のビデオに出てくる子どもたちを、美しいと思うか思わないかである。

## I 文学教材の追求

### 1. 「一つの花」(4年) 教材解釈

大問題を「お父さんがゆみこをめちやくちゃに高い高いするわけは何だろう。」とした。この問題は、原因を追求するものなので、原因をこの一節より前から、原因を探す。そうすることで、「ゆみこを喜ばせたい」という目的派を消すことができる。

「めちやくちゃ」という言葉から、お父さんの異常性を明確にする必要がある。さらに、深いため息をついて言った言葉の中から、一番重要な文を探す。

「いったい、大きくなって、どんな子に育つだろう。」を選び出したら、また、分けて、分けて調べて追求するという手順を順に追っていくことでお父さんの不安の中身を明らかにしていった。

### 2. 「あるけあるけ」(1年) 記録

明らかに対立させて、友達の意見を聞いてみんなで解決させたいと考えて授業を進めていた。

### 3. 「注文の多い料理店」(5年) 音声

一部の指導の発言で進めている。あぶれている子をどうどう巻き込んでいくかの手立てを考える必要がある。意図的指名と自由発言のハイブリッドで。

### 4. 「よかったなあ」(4年) 映像

教師は、子どもに何をさせたかったのかが伝わらない。みんなワンパターンになっている。概念を壊してやる必要がある。

## II 「表現教材」の追求

### 【表現】「おむすびころりん」(1年)

- ・時間と場所の制約の中で、どうやるかを考えたい。
- ・基本に立ち返り、まず音読からやるとよい。

### 【合唱】「あくびが出るよ」(声だし)(全校)

- ・形から入るのは悪くない。実際にあくびをさせて、リラックスできるようにしていくとよい。

### 【図工】

#### 「ヒガンバナ」(1年)

- ・形や色が面白いからという理由で教師は題材を選んでいるが、子どもの側にどれだけこの花に興味関心があるだろうかという疑問がわく。描くのには苦労している子もいて、子どもの実力とのギャップがある。教材が子どもの実態に合っているかを考えていきたい。

#### 「立つ友」5年

- ・前回よりはよくなっているが、まだ指導が弱い。時間をかけるべきところは、もう少しかける。

「くつ」5年が

- 片方の靴で勝負したのはよい。線が命なら、6Bを使わせるとよい。水かげんがまちまち。タッチが残るようにするとよい。